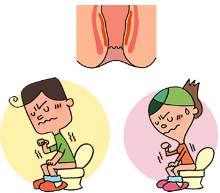
**内痔核（いぼ痔）に対するジオン注射（ALTA療法）の説明および同意書**

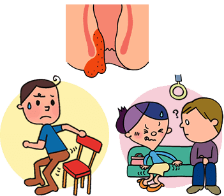
（１）内痔核とは

痔の中で最も多いタイプで、おしりの血行が悪くなって、血管の一部がこぶ状になったものです。一般には、「いぼ痔」とも呼ばれます。歯状線より上側（直腸）にできたものを内痔核【下図①】、下側（肛門）にできたものを外痔核【下図②】と呼びます。

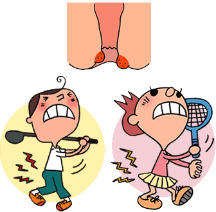
**Ⅰ度：おしりから血が出ていた**クッション部である内痔静脈叢がふくらんで、痔核ができます。排便時のいきみによって負担がかかり出血するようになります。歯状線の奥にできるので、痛みを感じず、比較的多量の出血があるのが特徴です。

**Ⅱ度：おしりから何か出てきた**痔核を支える組織が弱くなり支えきれなくなり、排便時に痔核が肛門から飛び出します。痛みはあまりありませんが、出血を伴い、飛び出た痔核は自然に元に戻ります。

**Ⅲ度：指で押し込まないと戻らない**排便時に痔核が肛門から飛び出して、指で押し込まないと肛門内に戻らなくなります。運動やおなかに力を入れたはずみで、痔核が外に飛び出すようになります。

**Ⅳ度：指で押し込んでも戻らない**痔核を指で押し込んでも戻らず、いつも外に出たままになります。分泌液が増えて下着が汚れたり、肛門がかぶれてかゆみを起こしたりします。出血はおさまることもありますが、至急、専門的な処置が必要です。

（２）内痔核以外のおしりの病気

・**血栓性（外）痔核**肛門のまわりにあずき大の黒っぽい硬いイボができて、ズキズキと激しい痛みを起こします。特に前ぶれがなく、突然起こることや、テニス・ゴルフなどのスポーツ、排便時に強くいきんだのがきっかけで、症状が出ることもあります。坐薬や軟膏で軽快することもありますが、切開処置が必要になることもあります。

**・裂肛**肛門の皮膚が切れたり裂けたりして傷がついたものです。便秘でかたくなった便が肛門の粘膜を傷つけて生じることも多く、強い痛みがあり出血を伴うことがあります。一般には、「切れ痔」とも呼ばれます。

**・痔瘻（じろう）**肛門のまわりに膿がたまり、膿が流れ出るトンネルができた状態です。便の細菌が入り込んで化膿するため、発熱や痛みを起こします。一般には、「あな痔」とも呼ばれます【下図③】。

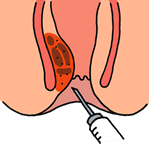
ダイアグラム

自動的に生成された説明**・大腸がん（直腸がん）**おしりからの出血を「痔」だと思い込んで市販薬を使っても、いっこうに良くならない。病院を受診し検査をしたら、「直腸がん」がみつかった、というケースも実際にあることです。がんは早期発見・早期治療が鉄則です。気がかりがあれば必ず受診・検査を受け、がんでないことを確かめましょう。

**・直腸脱**排便でいきんだときなど直腸に腹圧がかかったときに、直腸の粘膜が肛門から脱出してしまう病気です。内痔核が脱出する脱肛と勘違いされることも多いのですが、原因も治療法もまったく違うので、専門医にご相談ください。

**・皮垂（スキンタッグ）**これは病気ではありませんが、肛門出口の部分で皮膚がたわんで肛門から出ているようにみえるものを指します。出産経験のある女性などで、痔ではないかと悩んでしまう人もいますが、特に心配のないもので治療の必要はありません。早く安心を得るためにも、ひとりで悩まないで、早めにご相談ください。

**・肛門掻痒症**痔の症状にもおしりがかゆくなることがありますが、肛門周囲のかゆみの大部分は、便によるかぶれ、外的刺激が原因です。肛門周囲湿疹とも呼ばれます。自己判断による対処はかえって悪化を招く可能性もあるので、まずはご相談ください。

（３）ジオン注射（ALTA療法）の手順

* 1. 治療当日の朝は軽めの食事にしてください。水などの水分摂取は構いません。降圧剤、糖尿病治療薬などの内服薬については事前に主治医とご相談ください。
  2. 当日の服装は着替え（検査ズボン）の楽なものにしましょう。
  3. お薬として脳梗塞、心疾患予防のための血液をサラサラにする薬（抗血栓薬など）を内服している方でも、治療を受けることは可能です。休薬の可否については主治医とご相談ください。安全性を高めるため、まず内服薬やアレルギー（とくに局所麻酔アレルギー）、既往症（感染症の有無も含めます）について確認をします。当てはまる場合は必ずお申し出ください。
  4. 処置室の検査台で右横向きになり，おしりの力を抜いてリラックスしましょう。
  5. 肛門周囲に局所麻酔（部分的な麻酔）を行い、硫酸アルミニウムカリウム水和物、タンニン酸（ALTA）からなる硬化剤（ジオン注）を注射することで、脱出や出血を改善する治療法です。痛みや出血がほとんどなく、決められた手技講習会を受講した専門医が実施します。皮垂切除など追加処置を同時に行うことがあります。痔の程度にもよりますがだいたい15分から30分で手術は終了します。

（４）治療のあと

1. 飲水、食事は通常、処置後30分ほど経ってから摂取してください。
2. 当日の激しい運動や過度のアルコール摂取はおやめください。お風呂も長風呂を避け、シャワー程度が良いでしょう。
3. 処置終了後、痛みや強い圧迫症状、出血などが生じた場合、当クリニックまたは連携機関に至急連絡してください。

（５）ALTA療法の偶発症

　治療中の偶発症としてまれに、血圧低下や出血があります。治療後の合併症としては、発熱や腹痛、直腸潰瘍、狭窄、周囲臓器への炎症の波及などがあります。程度により緊急処置や入院が必要となることがあります。治療後の担当医の説明もよく聞きましょう。

以上を理解され治療を受けられる方は、同意書にご署名下さい。また同意書を提出された後でも治療を中止することができますので、いつでもお申し出下さい。

**内痔核に対するジオン注射（ALTA療法）の同意書**

　私は、ジオン注射（ALTA療法）による治療を受けるにあたり、説明書に基づき説明を受け、治療の目的や方法、偶発症について十分に理解しました。

ジオン注射（ALTA療法）による治療を受けることに同意します。

令和　　年　　月　　日

患者氏名

代理人署名

（患者との続柄 ）